

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 令和8年3月15日
調査研究事項	<p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>1. 教育課程の編成に関する調査</p> <p style="margin-left: 20px;">① 多様な生徒の学習ニーズに対応したカリキュラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導を必要とする生徒向けの教育課程の構築</li> <li>・不登校経験者の学びを保障するための授業形態の検討</li> <li>・高校進学希望者への補習授業の最適な提供方法</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">② 個別最適化された学習支援の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の習熟度別クラス編成の効果検証</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">③ 校外学習の充実</p> <p>2. 教育環境の整備に関する調査</p> <p style="margin-left: 20px;">① 人的支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳・日本語指導支援員・スクールサポーター・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置と活用方法</li> <li>・教職員のスキルアップ研修の効果的な実施方法</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>1-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学級には、戦争、貧困等で義務教育が十分に受けられなかった高齢者や帰化した生徒で日本語理解が十分でない生徒、幼少期から海外で生活していたため日本語が話せない生徒が在籍している。生徒の多様な背景に対応したカリキュラムを構築し、学習機会を最大限に保障する。特に、日本語指導が必要な生徒や学習ブランクのある生徒に対し、基礎学力の定着と社会適応を支援する授業形態を検討し、より実効性の高い教育課程を確立する。</li> </ul> <p>1-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語の習熟度や学習経験が異なる生徒に対し、適切な学習環境を提供するために、習熟度別クラス編成の有効性を検証する。また、個々の生徒の学習進度に応じた柔軟な指導方法を確立し、学習の定着率や生徒のモチベーション向上を図る。</li> </ul> <p>1-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の社会性や実生活での適応力を高めるため、学校内外での学習活動の有効性を検証する。昼間の中学校や大学との連携を強化し、学びを実生活に結びつける機会を増やすことで</li> </ul>

	<p>、生徒が社会で自立していく力を育む。</p> <p>2—①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通訳・スクールサポーター・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど、多様な支援者の配置と活用方法を検討し、生徒一人ひとりの学習支援・生活支援を充実させる。特に、日本語指導やメンタルヘルス支援の強化を通じて、生徒が安心して学べる環境を整備することを目的とする。</li> </ul> <p>教職員が日本語指導や生徒支援に関する専門性を高め、生徒の多様なニーズに対応できるようにする。特に、日本語教育・不登校支援・キャリア教育などに関する研修の効果を検証し、より実践的かつ持続可能なスキルアップの方法を確立する。</p>
調査研究の成果	<p>1. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス編制を認定5クラスから日本語の習熟度に合わせた6クラスに再編制し、教員による学習者への対応を強化した。また、日本語指導初歩クラスの6組では、途中入級の聴講生を含めて学習支援が必要な生徒を抽出して、日本語指導を重点的に行った。日本語指導を主体とした6組～4組クラスでは、日本語の習得状況に応じて、半期ごとに進級できる体制を整えた。「6組→5組14人」、「5組→4組2人」、「4組→3組3人」と、昨年度より進級者が増加した。次年度初めにも同等の進級が見込まれる。(1—①、1—②)</li> <li>・ 日本語指導の初歩クラスでは、TTや個別指導を取り入れた。地域の方々や近隣大学の学生ボランティアによる協力があり、きめ細かな指導ができた。(1—①)</li> <li>・ 高齢のため学校で長い時間の登校が難しい生徒や、家事や残業により早退・遅刻・欠席がある生徒には、家庭学習ができる教材等を工夫し個別対応を行った。(1—①)</li> <li>・ 本学級で学習してきたことをもとに生徒による作文発表会を春と秋の2回実施している。作文を通じて、生徒の学習状況を確認し、個に応じた教材について教員間で生徒の情報を共有することができた。また、発表会を通じて生徒同士で思いを共有し、他者とのつながりや自己肯定感の醸成につながった。(1—①)</li> <li>・ 本校昼間の生徒との交流については、集会での生徒発表の他に、コロナ禍以降出来ていなかった夜間学級での授業体験を行い、相互理解が深まった。(1—①)</li> </ul>

2-1. 外国籍生徒の在留資格や日本語指導等における教職員のスキルアップや個に応じた教材作成について

- ・進学予定者の始業前補習学習では、個別に作成した教材を活用し、日本語理解の向上がみられた。(1-①)
- ・専門家を招聘し、日本語指導力の向上のため研修を行った。模擬授業や講義を通じて意見交換を行い、指導の方向性や課題の確認ができた。(2-①)
- ・大阪出入国管理局の講師による研修では、在留資格に関する理解が深まり、生活相談や進学・就職について、適切なアドバイスができるようになった。(2-①)
- ・近畿夜間中学校協議会の研修会や全国夜間中学校研究会に参加及び発表をし、他校の先進事例の共有や取組みの見直しを行った。(1-③)
- ・校内授業研では、教科指導や日本語指導に関する意見交換を行い、新たな気づきや発見が得られた。(2-①)

2-2. 特別支援を必要とする生徒の学びの保障のための職員のスキルアップや具体的な指導方法について

- ・スクールカウンセラーによる「大人の精神疾患」についての研修を実施した。生徒理解が深まり、適切な助言ができるようになった。(2-①)
- ・講師を招き、校内研修(在留資格等)、人権教育研修(八尾中学校夜間学級の成り立ち)を実施した。外国籍生徒の在留資格等についての理解や、教職員の人権意識の向上につなげることができ、差別を見抜き許さない学級づくりや共生社会の実現に向けた取組みを進めることができた。(2-①)

3. 夜間中学校専任スタッフ(通訳・スクールサポーター等)の配置や就学援助制度などによる教育活動における支援のあり方について

- ・専任スタッフ(通訳)の配置により、資料の翻訳や行事参加時の通訳、進路説明会や保護者との進路懇談、入学希望者への対応などを円滑に進めることができた。(2-①)
- ・生活保護・就学援助等の申請、検査・検診の間診票記入、病院等への付き添い、府営住宅の申請なども、専任スタッフ(通訳)と連携し対応した。(2-①)

#### 4. 生徒の実態に合わせた指導方法や教材の開発について

- ・廊下に全生徒で作った作品を展示し、自身や他者の頑張りを共有できる環境を整え、生徒の自己肯定感の向上に取り組んだ。

(1-①)

- ・本校の昼の生徒との交流として、全校集会で代表生徒の作文発表と本校教職員による説明を行い、夜間学級での授業体験・交流を行った。「夜間中学についてよく理解できた。」や「学校にこれていることは当たり前じゃない事がわかった。」などの感想をたくさんもらった。(1-①)

- ・不登校等により小学校課程が十分でなかった既卒生にむけて、小学校経験者の意見が参考になり、校区交流や小学校での授業見学・研究発表会にも参加し小学校課程の資料も集めることができた。(2-①)

- ・個別の進度に応じた教材の作成やICTを活用した学習支援を実施した。(1-②)

- ・近畿夜間中学校協議会や連合生徒会の行事に参加することで、他校と交流をはかり、それぞれの取り組みを知り、自校での活動に生かすことができた。また、遠足等を含め移動手段のバスや電車でのマナーやルールを学習し、日本の文化にも触れることができた。(1-③)

#### 5. 進学・生活相談や不登校経験者支援のための相談体制の整備について

- ・スクールカウンセラーの月1回配置により、生徒も教師も相談しやすい環境が整った。また、スクールカウンセラーによる教職員研修を実施し、生徒理解が深まり、安心・安全な学校づくりを進めることができた。本年度はできなかったが、スクールソーシャルワーカーとの相談体制を再度作っていききたい。

(2-①)

- ・進学予定の生徒には、授業前に補習授業を実施し学力向上をはかるとともに、専任スタッフの通訳のもと保護者、本人と進路懇談を行い、多言語進路ガイダンスや高校見学にも引率するなどきめ細かな支援を行った。(1-①、2-①)

- ・日々の授業前と長期休業中の補習等の学習体制にスクールサポーターや日本語指導支援員を活用し、高校進学に向けて取り組んだ。生徒の不安や心配事を取り除き、出席を助けることにつ

ながった。(1-①、2-①)

- ・日本語理解に不安を抱える生徒に対して、出願手続きのサポートや入試日、発表日、合格者への説明会等に教職員が帯同した。(2-①)
- ・健康について相談対応を行った。また、検尿や結核検診における精密検査等の指導や学校検診における精密検査・特定検診等の病院等への付き添い、国民健康保険の請求や滞納の対応等について市役所・保健所等への相談援助を行った。(2-①)
- ・府営住宅、市営住宅申し込みの書類の書き方等の援助を行った。(2-①)
- ・生活保護関連、就学援助関連、通学定期関連の手続き援助を行った。(2-①)
- ・新たに渡日した生徒の学齢期の子ども、兄弟、姉妹の教育相談等の対応を行った。(2-①)
- ・夜間学級は学習できる場所である以上に、安心できる居場所であり、なんでも相談に応じてくれる信頼できる教員がいるところであり、生徒にとっては重要なセーフティーネットとなっている。(2-①)